

# より賢く よりかっこよく ～「安心」と「わくわく」～

豊川市立東部中学校  
2年 学年通信  
No. 15  
令和8年2月24日

## 一番マグロから学ぶ 人のために動く力 ～三送会・卒業式に臨む心構え～

2月から取り組んできた「三送プロジェクト」も、いよいよ仕上げの時期を迎え、本番が近づいてきました。今年度は、一部の生徒だけが担うのではなく、2年生全員が何らかの形で3年生のために関わられるよう、役割を分担して活動してきました。準備の様子を見ると、「デザインはこうした方がよいのではないか」「このせりふのときは、このようなジェスチャーにしてはどうか」など、生徒同士で意見を交わしながら主体的に取り組む姿が見られ、大変頼もしく感じています。

	①おやじボード	②花道プロジェクト	③3年教室	④級長会	⑤生徒会
役割	3年生の思い出写真を組み合わせ、感謝の気持ちを込めたコラージュを制作する。	メッセージカードを貼り合わせたメッセージアートや飾りを制作する。	卒業式当日の3年生教室の装飾や黒板を考え、前日に準備する。	3年生に感謝の気持ちを伝える出し物を企画・準備する。3年生を送る会で発表する。	3年生の先生方に焦点を当てた出し物を企画・準備する。3年生を送る会で発表する。

卒業の時期になると、3年生に対する「感謝の思い」という言葉をよく耳にします。部活動でお世話になったこと、個人的に支えてもらったこと、スポーツ大会や合唱コンクールで目標となる姿を見せてくれたことなど、さまざまな場面が思い起こされます。その一方で、3年生との関わりがあまり多くなく、どのような気持ちで参加すればよいかを模索している生徒もいるようです。

今年の初競り(はつぜり)では、5億円を超える値がついたマグロが話題となりました。落札したのは寿司店を展開する会社の創業者です。記録的な金額が目撃されましたが、そのマグロは特別な人だけのものにするのではなく、各店舗で解体され、通常価格で販売されました。そこには、創業者が亡き母から教わった「喜びは分かち合えば何倍にもなって返ってくる」という考え方が根底にあるといいます。苦しい時代にもその精神を大切に、多くの人に支えられて今日があるそうです。自分たちだけの利益にするのではなく、多くの人と喜びを共有する。その姿勢が信頼や応援となり、やがて何倍にもなって返ってくる。この考え方は、3年生を送り出す私たちの姿勢にも重なります。

3年生との関わりやすさは人それぞれです。しかし、誰かの門出のために心を尽くすことは、決して一方通行ではありません。人のために本気で動いた経験は、自分が送り出される立場になったとき、後輩や学校の雰囲気を支える力として返ってきます。今、3年生のために何ができるかを考え、行動すること。それは未来の自分たちを育てることであります。目の前の一つ一つの行動が学校の雰囲気をつくり、伝統となり、そしていつか自分たちを支える力になります。3年生の笑顔のために。そして、胸を張れる自分たちのために。人のために力を尽くせる学年として、最後まで心を込めて取り組んでいきましょう。



①おやじボードチーム



②花道プロジェクトチーム



③3年教室チーム



④級長会チーム



⑤生徒会チーム